

魚津中央通り商店街の防火建築帯の増減築に関する研究 その1
—時代の変化による商店街の変容について—

正会員 ○有原 千尋*
同 伊藤 野々香**
同 藪谷 祐介***
准会員 亀山 文音****
同 北野 まつ葉*****

防火建築帯 魚津市 富山
歴史的変遷 増減築 商業

1. 研究の背景と目的

富山県魚津市の中央通り商店街は防火建築帯として建てられており、防火建築法に基づく規定により3階部分の増築が可能で約4割に増築が見られる¹⁾。また、老朽化により2019年にアーケードが撤去され、商店街の景観が変化し続けている。本稿では魚津中央通り商店街の商業繁栄度を基準に時代を区分し、その区分ごとの商業需要と課題、建物利用の変容を分析することで、時代の変化によりどのように魚津中央通り商店街が変容してきたのかを明らかにすることを目的とする。尚、研究方法は沼津の防火建築帯を対象とした清水らの研究²⁾を参照した。

2. 魚津中央通り商店街の建設過程

魚津中央通り商店街の防火建築帯建設過程を整理するため、魚津市史³⁾・魚津大火の記録⁴⁾・魚津市役所の提供資料と後述するヒアリング結果を用いて図1にまとめた。

魚津中央通り商店街の防火建築帯は、1956年に発生した魚津大火の復興事業の一環として建設されたものである。大火から1週間後には、罹災者の生活と商売のためのバラックが約200戸建設され、大火から1か月後には、バラック住宅・商店が750戸建ち、仮設商店街が現出していた。バラックは都市計画のため、道路から1間下がって建設された。1957年から火災復興土地区画整理事業が始まり、防火建築帯は、1957年に110戸、1958年に25戸、計135戸が建設された。防火建築帯が建てられる際にバラックを後方に移動させ、防火建築帯の建設ができるスペースを確保した。幹線道路の両側に780m(奥行11m、計4,400坪)の防火建築帯が建設され、3階まで建てられた箇所と、経済面から2階までしか建てられなかった箇所がある。2階まで建てられた箇所では、後に上階や後方に増改築が行われた。

3. 商業需要による商店街の変容と課題

商業需要による商店街の変容を解明するため、文献調査³⁾⁴⁾と表1のヒアリング調査を基に防火建築帯の建設時から現在までを、商業繁栄度を基準に整理した(図2)。

建設当時(1957~1964年)…魚津市内の人に限らず周辺市町村の人たちが大勢買い物に訪れ、商店街周辺が大変賑わっていた。目立った課題はなく、人々は商売に励むことでまちを再生しようと盛り上がっていた。

繁盛期(1965~1985年)…専門店が商品を売るだけで商売ができるといった

建設当時同様の賑わいが続く一方、自家

表1 ヒアリング調査概要

調査期間	2020年6月8日-8月19日
調査方法	対面式ヒアリング
対象者	4店舗: 商店主 4人
内容	各期の商業需要の変容

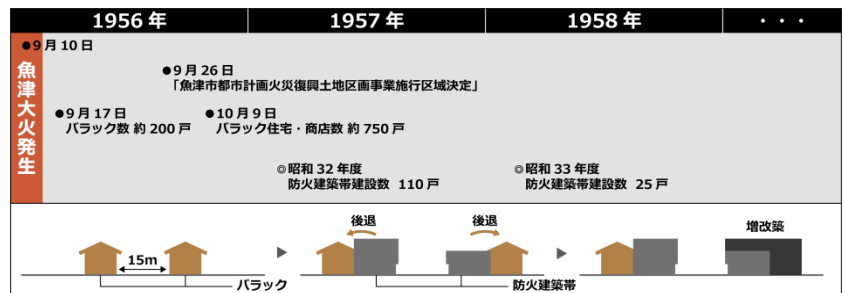


図1 防火建築帯建設過程

	建設当時 1957年~1964年	繁盛期 1965年~1985年	衰退期 1986年~2000年	変換期 2001年~2020年
繁栄度	大火復興として人々は商売に励んだ 下新川郡のお客さんが大勢来ていた	車を持つ人が少なかったため、多くの人が立ち寄り、人通りが多い ・専門店が専門の商品を売ってだけで商売ができていた	・ショッピングセンターが魚津駅前付近や国道8号線沿いにて、次第にお客さんは移動した ・徐々にシャッター通り商店街となった	・新しく商店街に店舗が入る ・若い世代がキー店舗として開業する
課題	目立った課題はない	・従業員確保 ・生活スペース不足 ・駐車場不足	・後継者がいない ・高齢化 ・駐車場不足	・アーケード撤去により街灯不足や日射への対応を各店舗で行う必要が生じた ・目的の一店舗しか潜在せず、商店街を歩いてもらえない ・駐車場不足
備考	1956年9月 魚津大火 1957年 防火建築帯建設	1965年6月 アーケード設置 1966年10月 魚津ショッピングセンター開業 1967年 電鉄魚津駅ステーションデパート完成 1975年8月 サンプラザ開業	1995年10月 アップルヒル 開業 1999年11月 ユニー魚津店 開業 (現 MEGAD'ン・キホーテUNY魚津店)	2001年 魚津中央通り名店街チャレンジショップ支援事業開始 (現在約10店舗) 2019年11月 アーケード撤去

図2 商業需要とそれに伴う課題の変容

用車の普及による、駐車場不足が発生した。また、子どもの成長による生活スペース不足が生じたため、防火建築帯の3階と後方部分（魚津大火後の仮設住宅として建てられたバラックを改築）への増改築が多くの店舗で行われた。商売が繁盛していたため、従業員を確保することが課題となった店舗もあった。

衰退期（1986～2000年）…一家に一台自家用車を持つようになり、周辺に大型ショッピングセンターが建設されたことで、利用客数と売上げが減少し、徐々にシャッター通り商店街へと変化した。店主の高齢化や後継者不足により商売を続けることが困難となり商売をやめる店舗も出始めた。

変換期（2001～2020年）…2001年に始まったチャレンジショップ支援事業により新規出店者が増えた。また、2019年にアーケードが撤去され、街灯不足や日射への対応を各店舗が行っている。さらに、駐車場不足と店舗数の減少から歩行者数が減少した。

4. 建物利用変容の実態

1964年（建設当時）、1981年（繁盛期）、1995年（衰退期）、2020年（変換期）の住宅地図と資料⁵⁾を用いて、商店街の建物利用変容を4期に分けて図3にまとめた。

建設当時…商店主は「防火建築帯が建設されるたびに、商売をやめた人は脇の方へ移動した」と述べている。道路沿いは店舗が占め、後方に住宅が建てられていた。

繁盛期…自家用車の普及に伴い、いくつか駐車場がつくられ始めるが、店舗数は大きく変動していない。

衰退期…駐車場が増加し、店舗が住宅化し始めた。ヒアリング調査より、この時期からシャッター通り商店街となり始めたことが明らかとなった。

変換期…多くの店舗が商売をやめて住宅のみとなり、空き・不明となる箇所も増え始める。店舗数は他の3期と比較すると大幅に減少していることが確認できた。

5. まとめ

本稿では、魚津中央通り商店街の商業繁栄度を基準に時代を区分し、その区分ごとの商業需要と課題、建物利用の変容を分析することで、時代の変化によりどのように魚津中央通り商店街が変容してきたのかを明らかにした。次稿では、時代区分ごとに

防火建築帯の増減築に伴う空間利用と居住者の変容を明らかにする。

参考文献

- 岡田啓佑 他：各敷地内の要素と接道およびファサードの改修 魚津市中央通りの防火帯建築を含む街区の構成(1), 日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) pp. 447-448, 2015.09
- 清水有愛 他：景観規制が商店街の商業空間と生活空間に与えた影響-沼津アーケード名店街における美観地区に着目して-, 日本建築学会計画系論文集第82巻第733号, pp. 723-733, 2017.03
- 魚津市史編纂委員会, 『魚津市史 下巻 現代のあゆみ』, 魚津市役所, 1972
- 魚津市市史編纂準備室, 『魚津大火復興 50周年記念誌 魚津大火の記録』, 魚津市, 2006
- 中井邦夫, 原山雅也, 『BA/横浜防火帯建築研究 魚津特別号 10+11 魚津中央通り名店街防火建築帯』, 神奈川大学工学部建築学科中井研究室, 2017.07

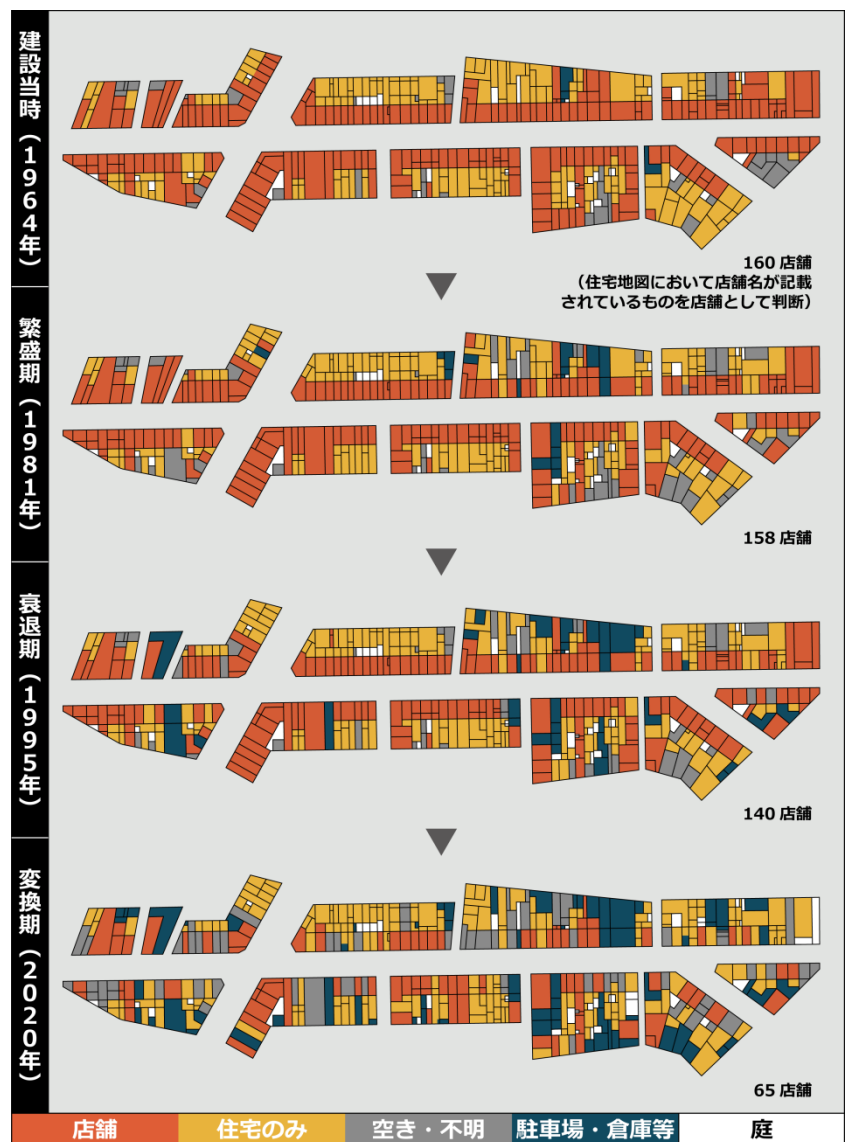


図3 建物利用の変容

*富山大学大学院芸術文化学系研究科 大学院生

**氷見市地域おこし協力隊

***富山大学学術研究部芸術文化学系 講師・博士（デザイン学）

****富山大学芸術文化学部 学部長

*Students, Graduate School of Art and Design, Univ. of Toyama

** Himi City Community Development Cooperation Team

*** Lecturer., Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, Doctor of Design

**** Faculty of Art and Design, University of Toyama